

第45回四日市市美術展覧会 審査講評

【日本画部門】

今年の出展点数は昨年より増加し、一生懸命制作に取り組んだ作品が多くみられ、例年になくレベルの拮抗により審査が難航いたしました。

市長賞の《夕日の響き》は、構図が面白く、木の幹や色使いの表現など大胆な挑戦が感じられる作品でした。

市議会議長賞の《老舗》は落ち着いた色調で重厚な雰囲気が出ていました。

教育委員会賞の《想》はやわらかい色調でやすらぎを感じさせる作品でした。

今後も出品者の皆様のご活躍を期待いたします。

【洋画部門】

今回も力作が揃いました。まだご自分のイメージを画面にうまく伝えきれていない方もいらっしゃると思いますが、色彩感覚や対象を捉えた際の輪郭表現など、独特の良い味を出していました。今後、どの方も何度も壁にぶつかるでしょうが、継続してこそ生まれる表現やアイデアがあると思いますので、人の評価に動揺されず制作してください。

抽象絵画や、現代のさまざまな状況を反映した作品がもう少し増えると、より見応えのある美術展になる気がしました。

【彫刻部門】

今年はやや出品が少ないのですが、いずれも完成度の高い作品がそろいました。市長賞を受賞された《アニマルライダー》は、私たちが生活のどこかで目にする金属の部品を集めて作家の想像上の動物に仕立てたものです。廃棄されたように見えるそれらの部品は、使い捨ての上に成り立っている私たちの生活への警鐘でもあるのでしょうか。作品の美しさとともに社会的なメッセージがこめられた優れた作品です。

出品者の方々の益々のご活躍を期待します。

【工芸部門】

工芸は素材や技法が多様であり、そのためか、工芸以外の分野でも評価のできる作品も見受けられました。

市長賞の「祈り」は中世のバイブル、讃美歌の譜面を連想させ、現代への何かのメッセージを感じる作品です。

教育委員会賞の RIN は一本の材木から彫り出した、その技術に驚かされました。

【書道部門】

出品数は昨年より微減しましたが、100 点を超える多くの作品が寄せられました。中でも漢字作品は全体の 64% を占め、構成の良い、より多く書き込んだ作品が入賞することになりました。

市長賞の作品は、縦三行の行草作品です。文字の大きさが自然で、行の流れが良く、行間がスッキリとした格調高い作品です。

市議会議長賞の作品は、臨書ですが、古典を離れて自分なりの力強い表現にまとめ上げた手腕が評価されました。

教育委員会賞の作品は、文字数と字の大きさが、作品のサイズとよくマッチし、余白が綺麗です。線も冴え渴筆も効果があり、完成度の高い作品です。

【写真部門】

応募点数の減少が、当美術展の質に関わることはありませんでした。画面構成（構図）、ピント、色調及びパネルの仕上げ等、大変うまくこなされていました。撮影対象も人物、風景、動物、花等多岐にわたり、各々に撮影者の真摯な態度がうかがえ、何ひとつ落選させる作品が見当たりませんでした。

上位入賞作品にはすぐれた風景写真を多く見出すことができました。市長賞を獲得した《浮き雲》は、「完全」とも言える構図の中で色調も冴え、雲のフォルムも描き出した作品で、審査中、常に高得点を与えられました。《広大な畑》は厳格な画面構成を採りながらも、求心的な構図の中に働く人々の姿を見せています。海外に取材した《グラナダの街角》は崩れかけた壁面と描かれたグラフィック（落書）と標識の影を描写した印象的な作品でした。人物では愛すべき「家族の肖像」に優れた作品が多く見られました。また「お祭り」等の伝統行事に対しても単なる説明的な描写ではなく、撮影者の感動や印象までもが確認できました。

敢えて「注文をつける」とすれば、1点による（「単写真」の）作品ばかりで「組み写真」の作品が1点だけというのがさびしかったです。自身の詩心や社会との関わりについて、複数の写真で表現することにも挑戦してもらいたいと思います。